受験指導一筋45年！ドクター高橋俊明がこっそり教える秘訣集

イオラニ、プナホウへの道

【その96】楽しい教育

7月のある日、韓国から3歳の男の子が塾に来ました。ところが、勉強を始めてわずか15分ほどで机に向かうのに飽きてしまって、先生を残したまま自分で椅子を降り、待っている母親のところに走って行きました。それを見たジェネラルマネージャーのイアン先生が、「まだ時間じゃないからね、先生の所に戻りなさい」と声をかけると、「いやだー」と絶叫して泣きそうな顔になりました。すぐに私はその生徒に、「今日はここまで。さあ、お母さんと一緒に帰ろう」と言い、その生徒の母親にはこう付け加えました。「ここで強要しては、この子が一生勉強嫌いになってしまう。まず、ここに来るのがワクワクするほど楽しくなるようにするため、明日、僕が魚釣りに連れて行きます。よろしいでしょうか。そこから、本当の教育が始まります」

早朝の魚釣り

約束した場所から5分ほどドライブして、魚釣りの場所に着きました。「うわーきれい！ここでお魚がとれるの？」と感動する生徒を私は抱え、じゃぶじゃぶと海の中に入り、岸から数メートルほど先の平らな岩場へ連れて行きました。「よーく見てごらん。魚がうようよいるでしょう」と私が語りかけると、生徒は、「とりたい、つかまえたい」と大はしゃぎでした。2人で、釣り糸を垂らすと、数分で、12センチほどの赤い魚がかかりました。「やった！」とはしゃぐ生徒と共に岸辺に帰り、記念撮影。釣り上げた魚を、用意した容器に入れてエアーポンプをつけると、泡が勢いよく吹き出した水中を、魚がすいすいと元気よく泳ぎました。「これで今日のレッスンは終わり。明日は、塾で、この魚の絵を描いてみようね」

翌日、先生と対話する生徒の表情は輝いていました。母親によると、魚釣りの後、「早く塾に行きたい」と熱望するようになったそうです。このことを通し、先生方に次のように言いました。「同じ年齢のほかの子に比べ、あの生徒は、塾で勉強できるタイプの生徒ではないと、あなたたちは初日に内心、諦めていたかもしれない。しかし、夢中になるものを教師が提供すれば、どんな生徒でも懸命になる。知恵や知識は、夢中になっている時に、最もよく脳に吸収される。私たちは、生徒を感動と感嘆の中に導き入れながら、教えていかなくてはならない。強制は教育ではない。つまらなくてもやりなさいというのは、やる気を削ぐだけだ」

自由な遊び

2005年度の「小児科と青少年医学の記録文書」（アメリカの研究機関報告）によれば、1981年から97年の16年間で、子供たちが自由に遊ぶ時間が、全米平均で25％減ったそうです。98年から2014年までの16年間では、さらに自由な遊びが減ってきています（正確な数字はまだ出ていません）。

自由な遊びとは、第三者が決めたルールに従って行うスポーツやテレビゲームではありません。まるで子犬がじゃれ合うような、あるいは砂浜で子供たちが戯れるような、自由に、自発的に生じる遊びです。ハワイにいる私たちは、その点、豊かな自然に恵まれています。いつでも、自由奔放な遊びを満喫し、自然から多くの感動を学べる環境が整っています。

ある調査結果

High/Scope Educational Research Foundationが、ミシガン州の貧困地域に関する画期的な調査結果を1997年に発表しました。自由な遊びを中心とする幼稚園生と、教師によって規律が常に厳しく守られて、自由な遊び時間の少ない幼稚園生の、その後の追跡調査の比較です。23歳までに重罪で逮捕された数は、規律の厳しい幼稚園の卒園生では3人に1人の割合でしたが、自由な遊び中心の幼稚園の卒園生では、10人に1人以下であったそうです。大人になってから、仕事を解雇された割合は、前者では25％以上であったのに、後者では7％以下でした。この調査結果は、何を意味するのでしょう。人間形成にとって大切なものが教育であることは当たり前ですが、その教育とは、「自由な遊び」をその内側に含んだものでなければならないことを示唆していると私は思います。

ドクター高橋俊明
心理学博士
ドクター高橋塾塾長
1947年宮崎県生まれ。県立大宮高、東京教育大学理学部を卒業。東京教育大大学院心理学科を修了し、ハワイ大学心理学博士課程に進学。68年に神奈川県・川崎市に高橋塾を設立し、77年にホノルルにドクター高橋塾を設立。データ分析を基にした独自の指導法で、2013年度は、ハナハウオリ校に3人、イオラニ校に35人、プナホウ校に70人を合格させている（合格率57%）。
Web: www.juku-in-hawaii.com ☎808-949-3366